

南島原市国際交流員 フランチのチャオ! 南島原 「食文化の違い」

食文化に関してイタリア人も日本人も1日3食を食べることは同じですが、イタリアでは毎日2回温かい料理を作って食べることが習慣です。

ドイツに住んでいた時気づいた点は、ドイツ人の多くは、週に何回か夕飯の際にパンと一緒にチーズやサラミ、ソーセージという温かくない食事をする事です。他にも、周りの英語圏の友達は1日3回調理した料理を食べるより定期的にお菓子やつまみを口にすることが日常的になっており、国によって食文化が異なります。

イタリアと日本の話題に戻ると、例えば毎日お米を食べる日本人と同じようにイタリア人はパスタを食べます。日本人はパスタといえばイタリア人はスパゲッティしか食べないというイメージを持っています。しかし、実は、イタリアでは形、大きさ、中身などによって300種類以上のパスタがあり、絡ませるソースによって組み合わせが山ほどあるので毎日食べても飽きません。日本人が白いご飯にあわせるおかずのようなものです。

もう一つ日本と違う点は、イタリア人は朝ごはんは甘いものを好むことです。日本でも食パンにバターとジャムをつけて食べることがありますが、イタリア人のようにカフェラッテにクッキー、ケーキなどを食べる日本人は少ないでしょう。

食方に関しても違いがあります。日本人は大きいお皿に盛った料理をそれぞれの小さいお皿に分けて食べますが、イタリア人はお鍋から直接個人で使う大きいお皿に移します。また、日本人はうまみを味わうために同時にいろいろな味の料理を口にしますが、イタリア人は1つのお皿の料理を食べ切った後、次の料理を出して食べます。それはイタリア人が塩辛いものを食べてから甘いものを食べる順番にこだわるからです。



フランチの「ヴォーノ!!イタリア料理講座」



イタリアからの国際交流員フランチエスカのイタリア料理講座を開催します。
簡単なイタリア語・イタリア文化を勉強しながら楽しく料理を作ってみませんか?
お子様連れでも大丈夫です。
※「ヴォーノ」とは、イタリア語で「おいしい」という意味。

企画振興課 ☎050(3381)5030 FAX0957(82)3086
Eメール: chiikiseisaku@city.minamishimabara.lg.jp

受講生募集

- ①肉と野菜のオープン焼き、イカ料理
- ②8月28日(金) 午前10時30分～午後1時30分
- ③西有家総合学習センターカムス
- ④20人(先着順)
- ⑤500円(参加人数で変動)
- ⑥8月20日(木) 午後5時
- ⑦電話、FAX、Eメールで申し込んでください。

お弁当の写真を募集します!!



地産野菜を使ったお弁当写真お待ちしています!!

※随時、市ホームページにタイトル、写真、コメントなど掲載します。

- 募集期間…8月3日(月)～平成28年2月15日(月)必着
- 市内小学生～一般
- 条件…①野菜をたくさん使うこと、②できるだけ地元産野菜を使うこと
③小・中・高校生は自分で作っていること
- 応募方法…「応募用紙」(市ホームページよりダウンロード可)に必要事項を記入して、下記まで持参、郵送、またはメール送信してください。

健康対策課「弁当の日係」
〒859-2211 西有家町里坊96番地2 ☎050(3381)5141
Eメール kenkoutaisaku@city.minamishimabara.lg.jp



つなごう未来へ! 島原半島世界ジオパーク

ジオパークであり 続けるための取り組み

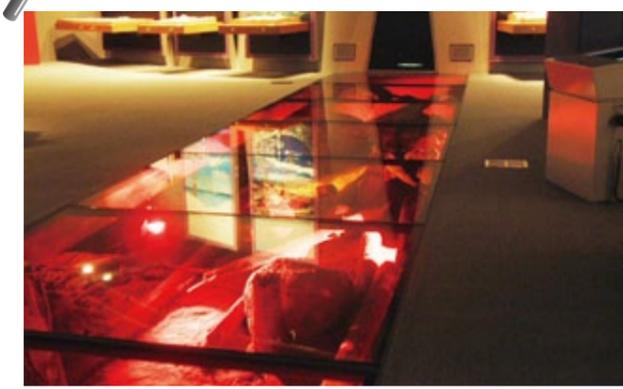
島原半島ジオパーク協議会 ☎0957(65)5540





島原半島世界ジオパーク
キャラクター「ジョーくん」

ジオサイト⑩ 世界が認めたジオ・ミュージアム ～がまだすドーム～



火砕流の速度が体感できる「火砕流の道」



被災した地域を再現した「焼き尽くされた風景」

今回は島原半島世界ジオパークの拠点施設になっている「がまだすドーム」です。

平成2年(1990年)11月17日に始まった雲仙普賢岳の噴火。噴火はおよそ5年間継続し、多くの被害をもたらしました。この噴火災害はそれまで長期的な災害の前例がほとんどなかったことから、日本の社会に強いインパクトを与えました。

「がまだすドーム」は、平成噴火の災害の脅威や教訓を風化させることなく後世に伝え、自然災害に対する防災意識を継承すること、火山学習の中核施設として観光客の集客に努め、地域を活性化させること、全国から頂いた温かいご支援への感謝の気持ちを表すこと、火山に関する学習機能を担い、島原半島の自然や歴史などの地域情報を紹介することを目的として、平成14年(2002年)7月1日にオープンしました。

がまだすドームがある場所は、平成噴火によって生じた土砂を用いて海を埋め立ててつくった土地で、噴火が始まる前は海でした。ドーム内の有料展示ゾーンには、赤いラ

ンプが火砕流の流れる速度を示す「火砕流の道」や、火砕流の温度をボールや目覚まし時計などの身近なもので再現した展示など、火山噴火で生じる現象を五感で体感できるアトラクションがたくさんあります。

その中で特に見ていただきたいのは、火砕流や土石流が流れ下る様子をコンピューターグラフィックスや振動ステーション、温風などで再現した「大噴火シアター」です。「大噴火シアター」を見ると、今は見ることもない雲仙普賢岳の噴火や、当時の町の様子が疑似体験できます。また、江戸時代に発生した大災害「島原大変」を立体紙芝居で再現した「島原大変劇場」も、ぜひとも体験していただきたいアトラクションです。

もうすぐ夏休みです。今年の夏は家族で「がまだすドーム」に見学しに行きませんか? 展示を見たり、語り部さんの講話に耳を傾ければ、新たな発見があるかもしれません。

今回は南島原市の「土石流被災家屋保存公園」を紹介いたします。



各種イベント・企画展実施中!
詳しくは

がまだすドームからのお知らせ

8月31日までの期間、有料展示ゾーンにご入館いただいた人で「**広報紙を見た**」と申告された人に、ささやかなプレゼントをご用意しています(数量限定・先着順)。ぜひお越しください。

記憶を風化させないために… 語り部ボランティアによるミニ講話開催
毎週日曜日 2回実施中(13時～/15時～15分程度)